海外ニュース

文/安藤 佳子 Ando Yoshiko

アメリカ　ライドシェアサービスの虚偽・誇大広告に2000万ドルの制裁金

●FTC ホームページ　https://www.ftc.gov/news-events/press-releases/2017/01/uber-agrees-pay-20-million-settle-ftc-charges-it-recruited　ほか

スマートフォンでタクシーやハイヤーを予約、利用し、事前登録したカードで決済できる配車サービスアプリおよびそのウェブサイトの運営会社が人気となり、2009年のサービス開始以来、世界中で展開している。配車の早さや比較的低料金で明確な決済などが特徴で、自家用車のドライバーも登録し、空き時間に客を運んで収入を得るしくみである。ところが、この新規ドライバー募集の広告が虚偽・誇大ではないかとの苦情が多く寄せられたためFTC(連邦取引委員会)が調査し、2000万ドル（約22億6千万円）の制裁金を科すことで同社と合意したと発表した。

FTCによると、同社のウェブサイトでは、登録ドライバーは年収の中央値をニューヨークで90,000ドル以上、サンフランシスコで74,000ドル以上、などとしていたが、実際は、ニューヨークでは61,000ドル、サンフランシスコも53,000ドルであった。また、求人広告に掲載の時間給も、ボストン、フィラデルフィアで25ドル、サンディエゴやフェニックスで20ドルとなっていたが、実際はもっと少なかったとしている。

さらに同社では、車を持たない人も新規ドライバーとして取り込むために、「車両解決プログラム」と称するカーローン/リースの独自のシステムをつくり、登録応募者の信用履歴にかかわらず、ローンは20ドル/日(140ドル/週)、リースは17ドル/日(119ドル/週)で提供すると宣伝した。しかし、FTCによると、少なくとも2013年後半から2015年4月までのローン支払いの中央値は週160ドル超、リースの中央値は週200ドル超に上った。しかも、リースの条件では走行距離無制限のはずが、実際には制限付きであった。

制裁金は、登録ドライバー各人に払い戻される。

香　港　「美容医療」に明確な定義とライセンス制を

●HKCC ホームページ　https://www.consumer.org.hk/ws_en/news/press/medical-beauty.html
●香港政府保健省 ホームページ　http://www.dh.gov.hk/english/useful/useful_medical_beauty/useful_medical_beauty.html　ほか

香港では、2012年の静脈点滴による敗血症ショック死、2014年の脂肪吸引手術後の死亡、2016年のボトックス注射による顔面麻痺など、相次ぐ事故にもかかわらず、ここ数年いわゆる美容医療が急速に広まっている。美容医療のリスクを懸念するHKCC(香港消費者委員会)は、15～64歳の男女1,004人への電話調査、美容医療の利用者602人の街頭インタビュー、市民72人によるグループ討議などを通じ調査した結果、電話調査回答者の約20%が美容医療の利用者で(女性が82.6%)、最も多いのはレーザー治療(61.8%)であった。半数以上が少なくとも月1回利用し、平均費用は1回約6,600ドル(約96,000円)、利用者の約70%は満足していた。

2013年、保健省の作業部会は、レーザー照射、物理/化学的ピーリングなどハイリスクと思われる施術や薬剤等を検討し、医療従事者による施術や承認済み機器・薬品の使用を推奨している。しかし、今回の調査で利用者の81.3%が、美容医療ではなく一般の美容サービスであると誤認していた。回答者の91.3%が「ビューティシャン」と呼ばれる非医療従事者による施術を受けており、医師、歯科医師によるものはわずかに3.2%であった。さらに、医療施設以外の美容サロンやセンターなどでは事前に合併症やリスクについての十分な説明がなく、美容効果のみを強調する、追加サービスや商品購入を高圧的に勧誘する、などの例が見られた。

このような現状を踏まえ、安全で質の高い美容医療を求めるために、HKCCでは政府に対し美容医療の明確かつ厳格な定義や、ライセンス制、クーリング・オフの導入など9項目の要望を提示した。

文/岸 葉子 Kishi Yoko

オーストリア　緑茶の味が分かる消費者が増加

●VKI『消費者』2017年1月号　http://www.konsument.at/test-gruentee012017

消費者の健康志向を背景に、オーストリアでは緑茶の人気が高まっている。主流は価格の安い中国産の茶葉。砂糖や蜂蜜を加えたり、ハーブティーとブレンドするなど、飲み方も多様である。特に抹茶は、スムージー、カクテル、焼き菓子等の素材に使われるほか、日本流の正統な点(た)て方でも飲まれている。緑茶に有害物質が含まれていれば台無しと考えたVKI(消費者情報協会)は、煎茶などティーバッグ入り緑茶(うち有機7商品)16商品、抹茶4商品(すべて有機)を試買し、有害物質と味を中心にテストした。

その結果、すべての商品から、鉱物油を始めとする有害物質が多少とも検出された。ただし、鉱物油は水に溶けにくく、茶葉の有害物質は浸出液に移行しにくいことから、同協会はティーバッグ品のほうが問題が少ないとする。そこで、茶葉ごと飲む抹茶の場合、評価がやや厳しくなった。発がん性が疑われるMOAH(芳香族炭化水素系鉱油)はティーバッグ入り緑茶2商品、抹茶3商品から相当量が検出され、いずれも総合的な評価で落第点がついた。

味のテストは、食味評価の素人である同協会スタッフ(広報担当、弁護士、研修生等)が行った。ただし、緑茶の味を理解できないとテストの意味がないことから、緑茶を飲む習慣があり、「利き茶」テストに合格した人に絞った。その結果、煎茶2商品が高い評価を受けたが、そのうち1商品はMOAHを相当量含んでいたため、総合評価で落第点がついた。

なお、福島の原発事故(2011年3月)を受け、オーストリアでは、今でも日本産の緑茶に神経質な人が珍しくない。しかし、日本産の3商品を含め、放射性物質が検出された商品はなかったという。

ドイツ　手の潤いを保つために

●商品テスト財団『テスト』2016年12月号　https://www.test.de/Handcreme-So-bleiben-Ihre-Haende-im-Winter-geschmeidig-5099179-0/
●商品テスト財団『テスト』2015年3月号　https://www.test.de/Antibakterielle-Winterhandcreme-von-Handsan-Zu-viel-versprochen-4817803-0/
●商品テスト財団『テスト』2009年1月号　https://www.test.de/Handcremes-Zwei-pflegen-sehr-gut-1743999-0/

紫外線や乾燥した空気にさらされる手は、年齢が出やすいといえる。特に、寒い季節には、手がガサガサになりやすい。このようなとき、強い味方となるのがハンドクリームだろう。商品テスト財団は、潤いある若々しい手を保つためのヒントを、月刊誌『テスト』に掲載した。

まず、石けんによる手洗いは感染症予防に有効だが、湯温が高くなり過ぎないよう注意を促す。手洗い後は、そのつど、手の甲から指先まで、ハンドクリームで保湿することがポイントだという。抗菌作用をうたう石けん、ハンドクリームもあるが、抗菌が事実だとすると肌のバリア機能を失い、場合によってはアレルギー発症のおそれがあることから、同財団は望ましくないという立場をとる。しかも、抗菌ハンドクリームとして販売される1商品の迅速検査を行ったところ、抗菌作用は実証できず、表示の面でも問題だったという。

また、年齢を重ねた手の甲にできるしみ(色素斑)を薄くすると宣伝するハンドクリームもある。しかし、同様の商品を過去に何度かテストした同財団によると、一度できたしみを薄くする効果は期待できないとのことである。それよりも、しみができないように、若いうちから日焼け止めクリームで予防するのが効果的だとする。

さらに、手荒れがひどい場合は、スペシャルケアが有効だという。その方法として就寝前にハンドクリームを厚めに塗り、木綿の手袋をはめたまま眠ると、一晩でクリームが浸透し、手に潤いが戻りやすいと助言する。